

信書便約款の設定及び変更の認可 について

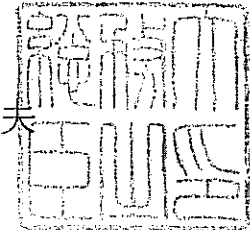
(総務大臣諮問第 1 0 1 4 号)



諮問第1014号
平成21年3月2日

情報通信行政・郵政行政審議会
会長 高橋 温 殿

総務大臣 鳩山 邦夫



諮問書

民間事業者による信書の送達に関する法律（平成14年法律第99号）第33条において準用する同法第17条第1項の規定に基づき、別添のとおり、有限会社札幌こどものくに社（代表取締役 和田 博一）ほか11者から信書便約款の設定の認可申請が、三重執鬼株式会社（代表取締役 寺田 武則）から信書便約款の変更の認可申請があった。その概要は別紙1のとおりである。

これらについて審査した結果は、別添の審査結果（概要は別紙2-1及び別紙2-2）のとおりであり、いずれも同条第2項各号の規定に適合していると認められる。よって、同条第1項の規定に基づき認可することとしたい。

上記について、同法第三十七条第二号の規定に基づき諮問する。

信書便約款の設定及び変更の認可申請の概要

I 信書便約款の設定の認可申請

いずれの申請においても、次の事項が規定されている。

1 引受けの条件

- (1) 信書便物として差し出すことができない物として差出禁制品
- (2) 大きさ及び重量の制限
- (3) 送達に適するよう包装し、不適当な場合には、申請者が差出人に必要な包装を要求又は差出人の負担により包装
- (4) あて名は、送り状を外装に張り付け又は信書便物の表面に記載
- (5) 引受場所は、営業所、差出人指定の場所、あらかじめ差出人との間で定めた場所
- (6) 引受時の申告・開示請求及びその拒絶時の引受拒絶、取扱中の開示請求及び開披

2 配達の条件

誤配達のお知らせ時に速やかに当該信書便物を引き取り、受取人たるべき者に配達

3 転送及び還付の条件

- (1) 転送については、届出から1年以内に限り速やかに転送（転送範囲は提供区域内）等
- (2) 還付する場合として、①配達ができない場合で、差出人から還付の指図を受けた場合、②約款の規定に違反して差し出された信書便物である場合、③送達中に差出人から還付の指図を受けた場合又は事故の際の措置として行う場合等

4 送達日数

- (1) 1号役務及び3号役務：送り状に記載の配達予定日、又は、配達予定日の記載がない場合には最初の170kmは2日、以後170kmごとに+1日（離島等の場合は相当の日数を経過した日）等
- (2) 2号役務：差出時から3時間以内

5 料金の收受及び払戻しの方法

- (1) 收受の方法は、引受時又は配達時（受取人払い）等
- (2) 払戻しの方法は、差出人への持参等

6 送達責任の始期及び終期

始期は、差し出されたとき。終期は、受取人への引渡し（同居人、管理者等への引渡しを含む。）又は郵便受箱への投函等

7 損害賠償の条件

- (1) 自己／使用者の無過失を証明しない限り、損害賠償責任を負担
- (2) 天災等による損害、差し出すことができない物に発生した損害等一定の場合には免責
- (3) 送り状に記載の責任限度額等を上限としてき損の程度等に応じた額を支払い。ただし、故意／重過失により生じた場合には一切の損害を賠償
- (4) 損害に関する責任の時効（その損害を知っていたときを除く。）
受取後1年（き損については、受取後14日以内に通知が必要）

8 他の信書便事業者と協定等をして信書便物を送達する場合、送達上の責任は、自らが負担

II 信書便約款の変更の認可申請

(注) 網掛部分が今回変更するもの

申請者		三重執鬼株 (平成20年3月3日許可)
1 引受けの条件		
(1) 信書便物として差し出すことができない物として差出禁制品		○
(2) 大きさ及び重量の制限		○ (1号役務に係る大きさ等の制限を追加)
(3) 送達に適するよう包装し、不適當な場合には、申請者が差出人に必要な包装を要求又は差出人の負担により包装		○
(4) あて名は、送り状を外装に張付け又は信書便物の表面に記載		○
(5) 引受けの場所	・営業所等	—
	・差出人指定の場所	—
	・あらかじめ差出人との間で定めた場所	○
(6) 引受時の申告・開示請求及びその拒絶時の引受拒絶、取扱中の開示請求及び開披		○
2 配達条件 (誤配達のお知らせ時に速やかに当該信書便物を取り、受取人たるべき者に配達)		○
3 転送及び還付の条件		
転送は届出から一年以内に限り速やかに転送(転送範囲は提供区域内)		○
還付する場合として、①配達ができない場合で、差出人から還付の指図を受けた場合、②約款の規定に違反して差し出された信書便物である場合、③送達中に差出人から還付の指図を受けた場合又は事故の際の措置として行う場合等		○
4 送達日数		
【1号役務】		
①配達予定日の記載がある場合：当該配達予定日		○ (1号役務に係る送達日数を追加)
②配達予定日の記載がない場合：最初の170kmは2日、以後170kmごとに+1日(離島等の場合は相当の日数を経過した日)		
【2号役務】差出時から3時間以内		○
5 料金の收受及び払戻しの方法		
(1) 收受の方法	・引受時	○
	・配達時(受取人払)	○
	・後払	○
	・前金払又は概算払	○
	・クレジットカード払い	—
(2) 払戻しの方法 差出人への持参等		○
6 送達責任の始期及び終期		
(1) 始期	・差し出されたとき	○
(2) 終期	・受取人への引渡し(同居人、管理者等を含む)	○
	・郵便受箱等への投函	○
7 損害賠償の条件		
・自己/使用者の無過失を証明しない限り、損害賠償責任を負担		○
・天災等による損害、差し出すことができない物に発生した損害等一定の場合には免責		○
・責任限度額を上限としてき損の程度等に応じた額を支払い。ただし、故意/重過失により生じた場合には一切の損害を賠償		○
・損害に関する責任の時効(その損害を知っていたときを除く) 受取後1年(き損については、受取後14日以内に通知が必要)		○
8 特定の者に対し不当な差別的取扱いをする規定		なし

信書便約款の設定の認可申請の審査結果の概要①

信書便約款の設定の認可申請のあった12者について、審査した結果の概要は、以下のとおりであり、いずれの申請についても民間事業者による信書の送達に関する法律第33条において準用する同法第17条第2項各号の基準に適合していると認められる。

- 1 信書便物の引受け、配達、転送及び還付並びに送達日数に関する事項、信書便の役務に関する料金の收受に関する事項その他特定信書便事業者の責任に関する事項が適正かつ明確に定められていること。(同法第33条において準用する同法第17条第2項第1号)

条件等	審査概要 (いずれの申請も同じ)	適否
引受け	差し出すことができないもの、大きさ・重量、包装の方法、あて名の記載方法、引受けの場所が適正かつ明確に規定されており、かつ、引受時の申告・開示請求等について規定されている。	適
配達	誤配達の通知受理時に速やかに当該信書便物を引き取り、受取人たるべき者に配達することとされており適正かつ明確に規定されている。	適
転送・還付	届出から1年以内に限り転送(いずれも転送範囲は提供区域内)することなど転送及び還付の条件が明確に規定されており、かつ、当該条件に該当する場合は速やかに転送及び還付を行うことが定められている。	適
送達日数	送り状に記載した配達予定日に配達するなど規定されており、送達日数が明確に規定されている。	適
料金收受	引受時、配達時等における料金の收受など料金の收受、払戻の方法が明確に定められ、かつ、利用者の利便に配慮している。	適
送達責任	送達責任の始期及び終期が明確に定められている。	適
損害賠償	損害賠償の条件が明確に定められており、消費者契約法第8条及び第9条に抵触しない。	適
その他	協定等をした場合の送達責任は、自らが負担すると規定されており、当該協定等に係る役務の責任に関する事項が明確に定められている。	適

- 2 特定の者に対し不当な差別的取扱いをするものでないこと。(同法第33条において準用する同法第17条第2項第2号)

条件等	審査概要 (いずれの申請も同じ)	適否
差別的取扱	特定の者に対し不当な差別的取扱いをする規定はみられない。	適

信書便約款の設定の認可申請の審査結果の概要②

信書便約款の設定の認可申請のあった12者について、審査した結果の概要は、以下のとおりであり、いずれの申請についても民間事業者による信書の送達に関する法律第33条において準用する同法第17条第2項各号の基準に適合していると認められる。

- 1 信書便物の引受け、配達、転送及び還付並びに送達日数に関する事項、信書便の役務に関する料金の収受に関する事項その他特定信書便事業者の責任に関する事項が適正かつ明確に定められていること。(同法第33条において準用する同法第17条第2項第1号)

① 引受けの条件

項目	審査概要 (いずれの申請も同じ)	適否
差し出すことができない物	差出禁制品が規定されており適正かつ明確に規定されている。	適
大きさ及び重量の制限	明確に規定されており適当である。	適
包装の方法	差出人において送達に適するよう包装するなどされており適正かつ明確に規定されている。	適
あて名の記載方法	送り状を書面により外装に張付け又は信書便物の表面に記載するとされており適正かつ明確に規定されている。	適
引受けの場所	営業所、差出人から指定された場所等が定められており適正かつ明確に規定されている。	適
申告請求等	引受時の申告・開示請求及びその拒絶時の引受拒絶、取扱中の開示請求・開披の措置が規定されている。	適

② 配達の条件

審査概要 (いずれの申請も同じ)	適否
誤配達の通知受理時に速やかに当該信書便物を引き取り、受取人たるべき者に配達することが定められており適正かつ明確に規定されている。	適

③ 転送及び還付の条件

項目	審査概要 (いずれの申請も同じ)	適否
転送	届出から1年以内に限り速やかに転送(いずれも転送範囲は提供区域内)又は差出人の指図に基づき転送するとされており、条件が明確で迅速性も担保されている。	適
還付	配達ができない場合で、差出人から還付の指図を受けた場合等に速やかに還付するとされており、条件が明確で迅速性も担保されている。	適

④ 送達日数

	審査概要（いずれの申請も同じ）	適否
1号・3号役務	送り状等に記載の配達予定日、又は、配達予定日の記載がない場合には最初の170kmは2日、以後170kmごとに+1日とするなど明確に規定されている。	適
2号役務	差出時から3時間以内と明確に規定されている。	適

⑤ 料金の收受及び払戻しの方法

	審査概要（いずれの申請も同じ）	適否
	料金收受の方法については、引受時、配達時（受取人払）等が、料金払戻の方法については差出人への持参払い等が明確に定められ、かつ利用者の利便に配慮している。	適

⑥ 送達責任の始期及び終期

項目	審査概要（いずれの申請も同じ）	適否
始期	信書便物が差し出された時が始期とされており、明確に規定されている。	適
終期	受取人等への引き渡し、郵便受箱への投函等を終期としており、明確に規定されている。	適

⑦ 損害賠償の条件

	審査概要（いずれの申請も同じ）	適否
	<p>以下に掲げるとおり、明確に規定されており、かつ、これらはいずれも消費者契約法第8条及び第9条の規定に抵触しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己／使用者の無過失を証明しない限り、損害賠償責任を負担 ・ 天災等による損害、差し出すことができない物に発生した損害等一定の場合には免責 ・ 送り状に記載等の責任限度額を上限としてき損の程度等に応じた額を支払う。ただし、故意／重過失により生じた場合には一切の損害を賠償 ・ 損害に関する責任の時効（その損害を知っていたときを除く。）は、受取後1年（き損については、受取後14日以内に通知が必要） 	適

⑧ その他信書便約款の内容として必要な事項

	審査概要（いずれの申請も同じ）	適否
	協定等を締結した場合の送達責任は、自らが負担するとされており、明確に規定されている。	適

2 特定の者に対し不当な差別的取扱いをするものでないこと。（同法第33条において準用する同法第17条第2項第2号）

	審査概要（いずれの申請も同じ）	適否
	いずれの事業者についても特定の者に対し不当な差別的取扱いをすることを内容とする約款上の規定はみられない。	適

信書便約款の変更の認可申請の審査結果の概要①

信書便約款の変更の認可申請のあった者について、審査した結果の概要は、以下のとおりであり、民間事業者による信書の送達に関する法律第33条において準用する同法第17条第2項各号の基準に適合していると認められる。

- 1 信書便物の引受け、配達、転送及び還付並びに送達日数に関する事項、信書便の役務に関する料金の收受に関する事項その他特定信書便事業者の責任に関する事項が適正かつ明確に定められていること。(同法第33条において準用する同法第17条第2項第1号)

条件等	審査概要	適否
引受け	追加等された引受けの条件(大きさ及び重量の制限)が適正かつ明確に規定されている。	適
配達	従前と同様であり変更はない。	—
転送・還付	従前と同様であり変更はない。	—
送達日数	送達距離、追加された役務の種類等に応じた送達日数が明確に規定されている。	適
料金收受	従前と同様であり変更はない。	—
送達責任	従前と同様であり変更はない。	—
損害賠償	従前と同様であり変更はない。	—
その他	従前と同様であり変更はない。	—

- 2 特定の者に対し不当な差別的取扱いをするものでないこと。(同法第33条において準用する同法第17条第2項第2号)

条件等	審査概要	適否
差別的取扱	従前と同様であり変更はない。	—

信書便約款の変更の認可申請の審査結果の概要②

信書便約款の変更の認可申請のあった者について、審査した結果の概要は、以下のとおりであり、民間事業者による信書の送達に関する法律第33条において準用する同法第17条第2項各号の基準に適合していると認められる。

- 1 信書便物の引受け、配達、転送及び還付並びに送達日数に関する事項、信書便の役務に関する料金の收受に関する事項その他特定信書便事業者の責任に関する事項が適正かつ明確に定められていること。(同法第33条において準用する同法第17条第2項第1号)

① 引受けの条件

項目	審査概要	適否
差し出すことができない物	従前と同様であり変更はない。	—
大きさ及び重量の制限	信書便物の大きさ及び重量の制限について変更されているが、各々具体的に定められており、適正かつ明確。	適
包装の方法	従前と同様であり変更はない。	—
あて名の記載方法	従前と同様であり変更はない。	—
引受けの場所	従前と同様であり変更はない。	—
申告請求等	従前と同様であり変更はない。	—

② 配達の条件

審査概要	適否
従前と同様であり変更はない。	—

③ 転送及び還付の条件

項目	審査概要	適否
転送	従前と同様であり変更はない。	—
還付	従前と同様であり変更はない。	—

④ 送達日数

項目	審査概要	適否
1号役務	送達距離、追加された役務等に応じて、配達予定日の記載がない場合には最初の170kmは2日、以後170kmごとに+1日とするなど明確に規定されている。	適
2号役務	従前と同様であり変更はない。	—

⑤ 料金の收受及び払戻しの方法

審査概要	適否
従前と同様であり変更はない。	—

⑥ 送達責任の始期及び終期

項目	審査概要	適否
始期	従前と同様であり変更はない。	—
終期	従前と同様であり変更はない。	—

⑦ 損害賠償の条件

審査概要	適否
従前と同様であり変更はない。	—

⑧ その他信書便約款の内容として必要な事項

審査概要	適否
従前と同様であり変更はない。	—

2 特定の者に対し不当な差別的取扱いをするものでないこと。(同法第33条において準用する同法第17条第2項第2号)

審査概要	適否
従前と同様であり変更はない。	—